

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200156		
法人名	株式会社ハートフルケア		
事業所名	グループホームひなた庵		
所在地	栃木県足利市小俣町291-3		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成30年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成21年4月に開所し9年が経ちました。大通りから離れた静かな住宅街の中にあります。ひなた庵では、町会に加入し近所を散歩したり地域福祉サロン等でご近所様と交流を行って顔見知りの方も増えてきました。職員は入居者様がゆっくりと充実した生活が送れるように関わっています。また外出が困難になった方でもみんなで外出できるよう行事を企画して外食にも出かけています。医療機関とも情報交換を密にし出来るだけ健康で安心して長く入居して頂けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市南西部にある当事業所は、群馬県との県境に近く北関東道路や駅からのアクセスも良い。利便性に富んだ地域にありながら喧噪からは離れた古くからの静かな住宅街の一角にある。職員は常に笑顔を中心掛け、来客時には利用者がお茶を出したり、午後には皆で洗濯物を畳んだり、各々の性格や残存機能を活かしながら一人ひとりが役割をもち、和気藹々とした雰囲気の中で過ごしている。近所の方が毎月習字を教えるほか、地域ボランティアの受け入れや、クリスマスや敬老会などにはオペラ歌手に来てもらうなど、行事や催しを工夫しており、利用者の楽しみや良い刺激となっている。10時のおやつや就寝前の水分補給に、珈琲、紅茶、ココア、梅昆布茶等、好みに合わせた飲み物を選択できるなど、生活の随所に自己決定する機会、しやすい工夫を取り入れている。職員一人ひとりが利用者へ寄り添った生活を目指し、本人本位の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の掲示板に事業所理念を掲げ職員、来客者の目につくようにし実践できるようにしている。	理念に基づく毎月の目標を掲げており、毎月振り返りを行い共有している。職員は日々、利用者の意欲や達成感に繋がるよう一人ひとりが役割をもってできることを取り入れ、最期までその人らしく生きがいをもって暮らせるよう支えており、理念を実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の参加したり散歩の時に挨拶するなど交流が図れるようにしている。	地域の保育園児の訪問、神社の祭など各種行事のほか、近所のパン屋への買い物や日常的な散歩、地域の福祉サロン参加を通して、地域の方との交流の機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり施設行事に参加して頂くなど交流、理解をしてもらえるような機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて活動報告をし様々な意見を聞き入れサービス向上に努めている。	利用者、地域包括支援センター職員、元民生委員の地域住民、市職員が参加し、事業報告を中心に、話し合いや意見交換をしている。	家族や地域の方、新たなメンバーが参加しやすい日時やテーマについても検討しながら、より多くの意見や地域の理解と協力を得られるよう、関係者への参加呼びかけを継続して取り組むよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所訪問時や市担当者が来所時に相談を行っている。	運営推進会議等を通じて情報交換し、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の意向をくみとり身体拘束をしないような対応、ケアに努めている。	職員研修を行い身体拘束について学び、研修内容は情報交換会で共有している。管理者は日常のケアで気になることがあれば全体の会議で振り返りや指導を行っている。職員は日頃から傾聴に努め、個々の思いに寄り添いつつ、言葉かけの工夫や気分転換なども取り入れながら、本人が納得できるよう対応し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を開催したり職場内でも言葉や対応に注意し、職員間でも話し合い虐待防止に努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では利用している入居者はいないが権利擁護について話し合っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の際、本人と家族に同席して頂き十分な説明を行い理解納得して頂き入所に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所したときは日常の様子や変化を随時報告し家族からの要望なども受け付けています。	毎月の請求書送付時に、利用者の日頃の様子や行事等の報告を行い、利用料の支払いや面会で家族が来所した際に、意見を聞いたり話す機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に情報交換、毎日の申し送りにてカンファレンスを行い運営に関する意見を聞く機会を設けています。	居室の表札や椅子の足カバー、玄関への雑巾設置など、職員が良いと思うことは積極的に取り入れている。業務改善等会議で話し合うほか、普段から話しやすい関係ができており、日常の会話の中で職員意見を吸い上げ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるよう環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修などに積極的に参加できるようにして1人1人がスキルアップできるよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ施設内で職員の情報交換の場を設けサービスの質の向上に努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な事、困っている事に傾聴し安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安な事、困っている事に耳を傾け話を聞き不安な事が解消できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としているサービスを見極め対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がゆっくり家にいるときと同じように暮らしていけるよう関係を築けるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の絆を大切に家族が来所したときは日頃の状況を伝え家族と過ごす時間が取れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた人間関係、馴染みの場所などを大切にし関係が途切れないよう支援している。	歌が好きな事など、これまでの習慣や趣味など生活歴を大事に馴染みの活動を取り入れ、一日の中で関われる時間をもっている。馴染みの美容室を継続利用している方もいる。親戚や友人などの来所時には居室でゆっくりと過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し座席の配置や日頃の過ごし方で楽しく過ごせるように努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も必要に応じて相談や支援に努めそこで終わらない関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者との会話の中から、思いや希望など組み取り、職員会議などで共有しながらできるだけ意向に沿えるようにしている。	日常会話から思いをくみ取っている。音楽や食べ物など好きな物の話や、手を握るなどのスキンシップを図り、思いの把握に努めている。利用前からしていたことなど、一人ひとりの習慣を大切に継続している。本人の思いを他者へも代弁できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より話を聞き把握し、その人に合った過ごし方ができるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の経過記録を記入し職員間で情報の共有しています。また話し合いも行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者に担当職員を配置しています。本人、家族と話し合いより良く暮らすための課題とケアの在り方を見つけ、ケアカンファレンスにてアイデア・意見を出し合い、介護計画を作成しています。	生活課題など担当職員が普段の様子から感じることを取り入れたり、家族の来所時に利用者の日頃の様子を伝え、意見をもらっている。ケアカンファレンスで話し合い、協力医の意見や看護師に相談して身体状況を考慮した内容を取り入れ、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子や変化など個人記録・連絡ノートに記入し送り時職員間で情報の共有しています。介護計画の見直しにもつながっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望・情報・状況を判断し様々なニーズに対応できるように上司に相談しながらサービスに取り組んでいる。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月の行事やイベントを企画し地域で活動しているボランティアに来ていただき暮らしを楽しんでもらえるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関で受診して頂いています。特に無い場合は協力提携しているてらうち内科小児科医院の受診にて適切な医療をうけています。	本人・家族の希望する医療機関の受診を支援している。利用前からのかかりつけ医を継続する方もいるが、利用者の多くは協力医を主治医としており、電話や往診時に相談し連携を図っている。受診の付き添いは家族にお願いし、家族から話を聞くほか、必要に応じ医療機関と直接連絡を取り合い情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連絡を取り合いながら対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて日々の症状を伝え、入院となった場合には家族と情報交換をしながら早期退院をめざし退院後のケアに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される場合、本人家族主治医と話し合いをする機会を持ち終末期に向けた準備かできるようにしています。	利用開始時に緊急時の対応について意向を聞いている。身体状態の変化に合わせてその都度家族に説明、話し合いの場をもっている。必要に応じ主治医を介して介護老人保健施設などを紹介してもらい、適切などころへ移行できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期であるが施設内外の救命講習などの研修に参加して対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合避難訓練をは消防署・防災会社の立会のもと年二回行い消火器の取扱いについても講習を行っている。	職員は、隣接のケアホームと協力しあい、利用者の身体の安全を第一に有事の心構えをしている。昼夜想定避難訓練、職員の通報・避難誘導の訓練をしている。訓練前には近隣住民へその旨知らせている。風水害マニュアルも作成している。水や食糧、ガスコンロなどの備蓄もある。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者1人ひとりの人格を尊重し、言葉・行動に注意を払うように努めています。	入浴や排泄介助では、プライバシーを損ねないように外から見守る、扉を少し開けさせてもらうなど、個々に合わせ、羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思い、考えが言いやすい雰囲気づくりに努め、自己決定できるように支援していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望や思いに合わせて一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしができるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容室や移動美容室を利用しています。本人の好きな服を着てもらい、また季節の変わり目で衣類などの買い物に出かけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ会話をしながら一緒に調理や片づけができるようにしています。	週1～2回利用者と共に食材の買い出しに出かけている。職員が毎食手作りし、利用者はテーブル拭きや皿洗いを手伝っている。職員と利用者は一緒に食卓を囲み、時間をかけ、個々のペースでゆったりと食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食事量、水分量を提供し摂取状況を記録し健康状態が保てるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し清潔が保てるように支援しています。必要に応じて歯科往診をお願いし歯科衛生士とも情報交換をしている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表を活用し個々のパターンに合わせ声掛けやトイレ誘導を行っている。	24時間の排泄記録をつけ把握している。起床時、朝食後、昼食前、おやつ後など時間を決めて声かけしているほか、仕草や表情などから思いをくみ取り、声かけや誘導をしてトイレでの自立した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動を促し必要に応じて緩下剤の内服管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回の間隔で入浴しています。会話をしながらゆっくり入浴してもらえようように対応しています。	3日に1回、夕方の時間帯に1対1で入浴支援している。拒否のある場合も安心してもらうことを第一に考え、本人の思いに寄り添い、納得できるように説明するなど工夫しながら、円滑に入浴をしている。沐浴剤やゆず湯・菖蒲湯を楽しんだり、一人ひとりのペースでゆったりと入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く過ごせるように環境整備に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で内服内容を確認し、内服時には名前・朝・昼・夕を声に出し確認し誤食事故の無いようにしています。飲み込んだことも確認し記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割や興味への支援、毎日のレクリエーションなど楽しみや気分転換が図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺を散歩したりドライブに出かけている。また家族や職員と買い物などの外出支援も行っている。	外食や買い物、ドライブ、散歩など、日常の中で戸外へ出る機会を多く設けている。月ごとの担当職員を決め、毎月1回は外出行事を取り入れている。夏冬の寒暖の激しい時期を避け、神社の祭や相撲巡業、桜や紅葉、コスモスなどの名所やイベントへ出かけている。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者間の金銭トラブルがないよう家族に了解のもと金銭を預かり必要に応じて使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出はしますが、施設内でも季節感が感じられるように工夫をしたり入居者の方が居心地がよいと思ってもらえる環境作りをしている。	居間は明るく開放的で、壁には季節の装飾や外出時の写真等を掲示し季節感や思い出を感じられるよう配慮している。天井には木の梁があり広い空間のアクセントとなっている。窓際には小上がりの畳スペースもある。空気清浄機や空間除菌加湿器等を用いて温湿度管理や感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者居室、たたみ、玄関ベンチ、ソファで一人ひとりが思い思いに過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してたダンスや仏壇など本人が過ごしやすく落ち着ける空間になるよう工夫しています。	ベッドや筆筒は備え付けである。ベッドではなく畳マットを敷くなど、個々の状況に合わせて対応している。火気や食品等以外は持ち込み自由で、テレビ、マッサージ器、桐筆筒、家族写真など思い思いの馴染みある物を持ち込み、その人らしい居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では安心して過ごしていただけるよう物の配置や居室やトイレに名前をつけ環境整備し自立した生活が送れるように工夫しています。		